



けいこネ、一ねんになったから
もとじゆくのおぼあちゃん、三
まんえんくれたんだヨ。
ママにあげたら、こしかけかっ
ただけで、ママせんぶつかっちゃ
ったんだよ……ネッ、ママ。
「そんなこと、だまついで」だ
つて。
こうちようせんせいのみなまえ、
ダンゴのはんたいだつて、ダンゴ
ゴング、ダンゴ、でしょ。「フッ
フッフ」へんてこりんな、なま
えだねえ。

(一年 鈴木恵子)

昭和51年5月1日 / 編集・発行 / 岡崎市教育委員会
印刷 研文印刷社



(友情を育てるカナダの森 — 美合小)

— 教育随想 —

0 点の教育

石川 常子



ある家の子供が、テストをもらってき
た。0点であった。
「ぼく、ちゃんと答を書いたのに。」
子供は不満げである。親はテストを讀ん
だ。

「へびはいつのきせつに出てきますか。
こたえ、はる・なつ・あき・ふゆ」
(チューリップはいつのきせつにさきま
すか。こたえ、はる・なつ・あき・ふゆ)

子供は全部に丸をつけており、×点がつ
けられていた。
「なんだ。全部まちがっているじゃない
か。」

「いい、そう言ったが、子供にはそれなり
の言いぶんがあった。」

「でもねえ、ことしの冬にへびが家の庭
に出てきたでしょう。ぼくがふりまわし
たら、お父さんはキヤートといったでし

よう。へびは春でも夏でも秋でも冬でも
出てくるよ。チューリップだって、一年
じゅう咲いているし。」
それから数日たったある日、先生に出
あう機会があったので、その親はテスト
のことをきいてみた。
「ああ、あれですか。あれの正しい答は
春ですわ。○君は全部に丸をつけてい
たので、まちがいにしました。」

「しかし、長男が主張しているように、
へびは一年じゅう出てくることもありま
すし、チューリップも一年じゅう咲いて
いるんですが。」

「それはそうですが、解答書の答は春な
んですから、春が正解ですよ。」

と。これは三年前ある冊子に載った、父
親の体験記のあらましである。今はもう、
どの学校でもこんなテストで、子供や

親を迷わせることはないと思う。

しかし、答がひとつしかないとする先
生や、規格化した教育が、もしも残って
いれば、困りものである。

つい先日のこと、「いち」に「さん」し
「ご」と、職員室の窓ごしに聞こえる歌
うような声にさそわれて、園庭に出ると、
五歳児の○子ちゃん×子ちゃんが、咲
きそろった花壇のスマイルをかぞえていた。
「ごじゅご」
「ごじゅろく」
「ごじゅひち」
「ごじゅはち」
「ごじゅはち」

ひとつひとつ花を指さしては、ふたりが
交互に数詞を唱えていく。みごとにイキ
の合うのに感心して、みとれていると
「あ、わからなくなっちゃった。もうい
つべん。」

ふたりは顔をみあわせて笑い、また端か
ら「いち」に」とかぞえはじめた。
花の美しさに心をおどらせ、学ぶべく
して学ぶ姿がここにはある。それは見る
者をまで楽しくさせる姿である。

教育は答のあるものにとりくむことで
はなく、答を生みだし、答をつくりだす
とりにくみをするものだと思う。答をはじ
めから決め、その答にあわなければ0点
にする教育に墮したくないものである。

(岡崎市立矢作幼稚園長)

修学旅行

●歴史を観る機会

近藤 正義
修学旅行、それは小学校の児童にとつ
ては忘れられない思い出になる。岡崎市
が連合で実施するようになってすでに久
しい。その間、私も数回行った。多勢の
児童を引率するので掌握ということ考
えると現在の方法は適當ではないか。費
用をもう少し増して、全行程バスを利用
すれば更に能率的と思う。

京・奈良への旅は教材にもあり、まと
めとしてよい。やはり京・奈良はわが国
古代政治・文化の中心であり、それが近
距離に相接している点でもよい。ま
た、あれだけ価値あるものが短期日にま
とまって見学できる点でもよいと思う。
ただ、神社仏閣に偏りすぎている点でも
う少し改善できないだろうか。(緑丘小)

●セット旅行の見直しを

高木 良和

昭和二十五年、戦後初めての修学旅行
が復活されたのが、ちょうど中学三年の



ふるさとの自然



新芽を食べる

岡崎の植物

栗、池金、桑谷等に見られるユリ科の植物。芽をつんだものをゆでて、わんだね、あえものにする。夏に黄色の花が咲くが、

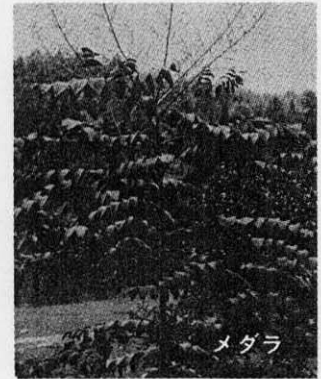
鱗茎をよく水洗いして、湯を通したものを、煮ついたり茶わん蒸しの具にする。苦味が少ないのでよい。市内各所にあるサユリも同様にして食べられる。ただし、いずれも乱獲をしないこと。

平、蔵次、大柳などの湿地に見られる。

常磐・河合地区の所々に見られる。若葉をゆでて水にひたし、苦味を取つてあえもの等にする。とても香りがよい。

○ノゲケ セリ科の植物で、桑谷山付近、

○タラノキ 幹にとげのある落葉樹で、成長すれば三〜四メートルになる。山地や丘陵地に広く見られる。特に舞木町の山中八幡宮から桑谷山方面に多い。



メダラ

これら天ぶら、塩づけにして食べる。

ぐらいで、割合に少ないシダである。新芽を、わんだね、おひたし、天ぶらなどにする。味は保証つきである。

○シオデ サルトリイバラに似たつる草で、ユリ科であるが葉脈がはっきりしている。桑谷山付近、河合地区・真福寺付近に多い。若葉をあえもの、天ぶら、サラダにする。非常においしいものである。

この他、タンポポ、タネツケバナ、ツエクサなどの雑草の中にも味のよいものがある。これらはその気になればすぐ手に入れることができるので、このあたりから、まず、野草の試食など始めてはいいかがだろうか。

ただ、キツネノボタンやキンボウケ、ドクゼリはセリとまちがえやすい毒草だし、チョウセンアサガオやヨウシュヤマゴボウは一見おいしそうであるし、マムシグサは猛毒がある。理科の勉強のつもりで植物図鑑を繰るのも楽しいものだと思う。

時であった。米を持参し、見学はすべて徒歩で、夕暮れ迫る奈良の町の緑石に腰をおろしてしまつた頃と比較すると、隔世の感が深い。

しかし、現在の修学旅行は、慣例の行事としてかたづけられているきらいがあると思う。天候や安全性など、現実には困難な面もあるが、整えられセットされたものを、ただ見学して帰るのでは印象も薄い。日常、体験のできにくいことを経験させたい。生徒にとつて、意外性のある旅行にできたらと思う。(矢作中)

●発想の転換を

岩瀬 敏彦

修学旅行と聞いてすぐ頭に浮かぶのは、旅館で枕投げをしてしかられたことだ。そんな僕が、枕投げを止める立場となつた。聞けば、オヤジの頃も同じだつたそうだ。とすると、修学旅行は、枕投げをしてしかられるという思い出をつくるために行くというのだろうか。

限られた時間の中で、多くの古社寺を訪ね、遠い昔をしのぶといつても、これはむずかしい。旅をすることの少なかつた昔にくらべ、家族旅行のさかんな今日、改めて出かける必要があるのか、という声もある。しかし、共に学ぶ仲間が共通の思い出をもつということはたいせつなことだ。そこで、たとえば、自炊をしながら自然遊歩道を踏破するとか、漁村や山村に泊りこんで汗を流しながら、働くということの意味を学ぶというようなプランはどうだろうか。

(井田小)

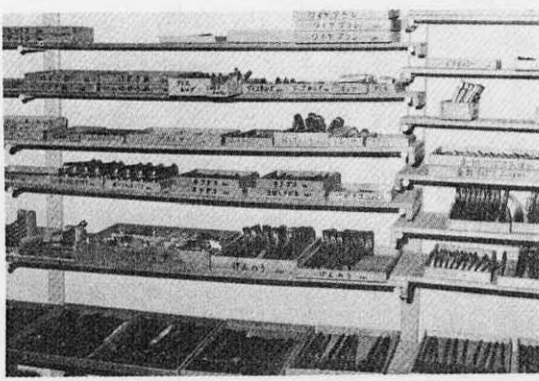
▼卒業記念の欄間

学校生活の中から思い出の行事、ソフト、読書、緑化、落葉スキーなど、卒業生九人の力で彫り上げたもの。

例年、卒業記念品を残すことになっていたが、人数が少なく負担が大きくなるため、このような工夫をした。(常南小)

▼道具の整理箱

道具の整理方法にはいろいろなアイデアがあるが、使用後の員数点検が正確にでき、使用にあたっては運搬が簡単であることがよい。本校では、同種類の道具を一つの盆にのせ、固定し運搬を簡便にしている。(福岡中)



▼無人販売

。竹筒がみんなを見ている信じてる。

昭和三十七年以来、生徒会厚生委員会によって始められたもの。当番は始業前、商品を手入れし、授業後商品の減った分と金額を合わせる。(城北中)

教室づくりのアイデア



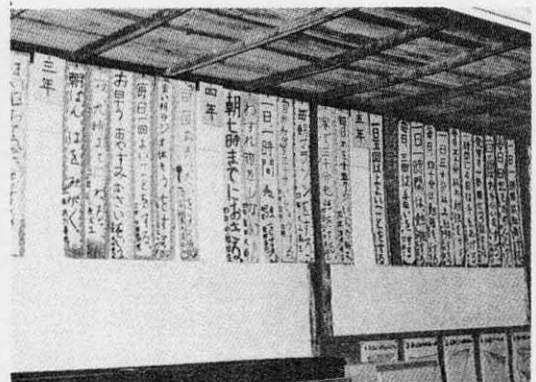
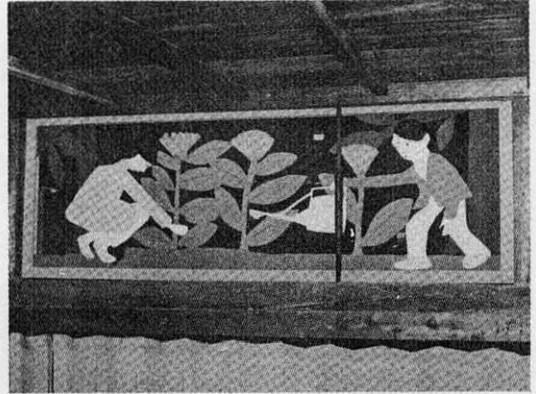
▼わたしの目あて

「ひとりひとりを伸ばす」のテーマでとり組んでいるが、その一つの方法として、二年前から実践しているもの。

四月、子ども一人一人が自分に合った目あてを決め、家庭科室に掲げ公表することによって自覚をもたせる。(恵田小)

▼教育目標のパネル

本校の教育目標をふまえ、生徒自らが実践すべき目標を学年別に系統だてたのがこれである。生徒の手をかりたこの目標は、自身への呼びかけであり、友だちへの呼びかけでもある。各学年の校舎の入口に掲示。(葵中)



葵中教育目標

よりよい社会の形成者

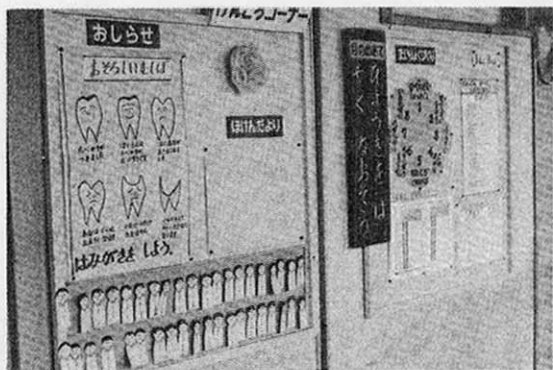
調和のとれた、たくましい実践力を持った人間

- ・人間形成をめざす学力の向上
- ・自ら主体的な生活態度の養成
- ・たくましい、健康でたくましい体力の育成
- ・創造力、発想力、積極的な努力意欲の伸張

従来の学校図書館から脱皮、教材センター・教育情報センター・学習資料センターとして多くのメディアをおきその開発、収集、整理、活用にあたる。(甲山中)

▼健康コーナー

学級全員の健康状態がひと目でわかる人形や、保健の目あて、体重表、疾病の治療のようすなど、保健面での働きかけのほか、体力づくり、学級づくりの資料など。(連尺小)



▼新しい図書館

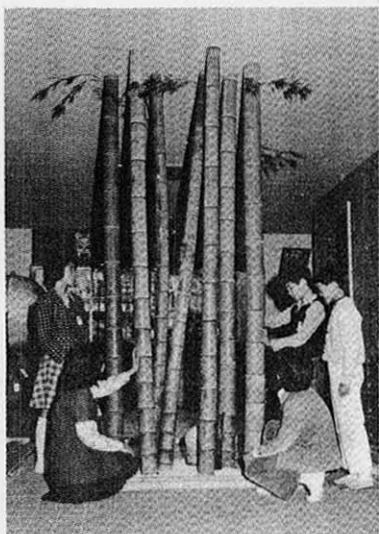


▼造形コーナー郷土井田野の戦いを描いた共同版画、未来の都市を夢みるレリーフなど豊富な作品が並ぶ。(井田小)



▼玄関と竹

人間には、竹のような、ちよつとのことでは雪折れしないねばり強い力が必要である。人間には適時、適切な時に節が必要である。あたかも竹の節のように。この気質を全校児童に育てたく、正面玄関に太い孟宗竹で造形し、校舎のポイントとなっている。(男川小)



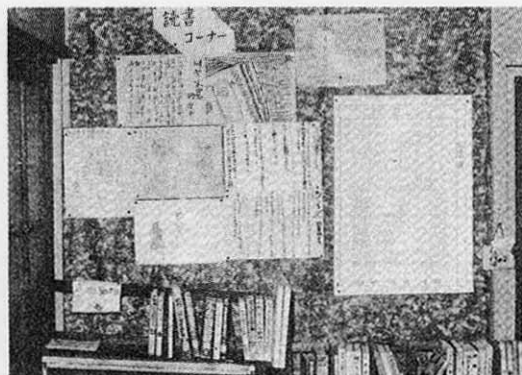
▼読書コーナー

学級文庫の上に、本の紹介新聞、読書星取り表などで、子ども読書への関心を呼びおこすようにしている。

教師から与えるものでなく、子どもなりに創意をこらしたのが特徴。

(六ツ美中部小)

▼郷土資料室
ここに集められた物は、学区内の旧家より寄贈された。昔の書物、軸をはじめ、暮らしの道具や農具など、江戸時代に使われたものなどもあり、貴重である。
(秦梨小)



新卒一年をふりかえって

矢西小 大野光代

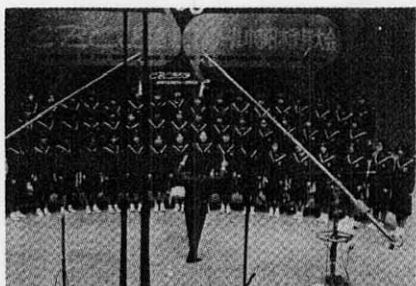
はやいもので、もう一年が過ぎ去ってしまった。はやかったような、しかし、やはり長い日であった。ひとりのこどもの方向を変えてやることのむずかしさ、助けてやることのむずかしさが身にしみる。

N君の母親はずっと病気がちであった。昨年の夏、N君は不幸にも母のない子となってしまった。いやになれば、授業中でも走りまわる。けんかは多い。忘れ物はほとんど毎日。話して聞かせればうんうんとすなおにうなずいてくれる彼。しかし、十分後にはもう忘れてしまっているのである。おこつてもだめ。ほめてもだめ。手をとって教えるようにも時間とれない。私にできることといえば、ときどき、母親の想い出話をしたり、けんかはだれが強いと話す程度であった。三学期のある日、私の給食が何かのほずみで机から落ちてしまったことがあった。「だれだって失敗することはあるんだよ」

つてくれたのは彼であった。また、ある日の授業中のこと、一生果命国語の本を読んだ後、「先生、勉強すると時間がはやくたつね」

といつてくれた彼。その時はうれしさよりも、一年近くも勉強に身がはいらず孤独な時間をおくっていた彼に、彼の力を少しでも生かせるようにしてやれなかつた済まなさでいっぱいであった。

こんなこどもに育てようと、さまざまな思いをめぐらして教師になった私だが、肉体的なつらさや教材研究などに追われ、こどもの管理や成績に目がいきがちになっていた自分を否定することはできない。ほんとうの意味でこどもとことばの通じた時のドキドキするような瞬間。そんなドキドキするようなふれあい、瞬間を求めて私はこの仕事を選んだような気がする。そのむずかしさを思うと同時に、やはり、ことばの通じる教師になりたい、いや、なろうと思うのである。



合唱指導

葵中 後藤和彦

食わず嫌いは病のもと……好きなものばかり食べて偏食すると、栄養が片寄って、病弱になつてしまうものです。音楽も全くこれと同じだと思ふのです。歌うこと、ピアノを弾くこと、レコードを楽しむこと、どれもけっこうなことです。しかし、好みの音楽にだけ終始し、他の分野の音楽を知ろうともしない。そんな音楽愛好家が随分多いのではないのでしょうか。食欲なまに音楽のつまみ食いをしてみたらいかでしょうか。

こ二十年余、私は「合唱」を中心に音楽をみつめてきました。しかし、合唱のみを、こどもに教えようと思つたことはありません。広い視野に立つて、音楽の無限の大きさと深さを教え込もうと、欲の深い考え方を、常にもつてきました。

こんな私の意図に、ひとりの生徒が、こたえてくれたのです。「あたりの空気がピンと張詰める今、先生の指揮棒に全員心が集中します。先程までふざけ合っていた先生と私達が、今度は一体となつて一つの曲に取

り組むのです。「音楽を知る」それは決してあまくはありません。私は実際に体験して、そのきびしさに驚き、また、挫折しそうになつてしまいました。それでもその時私を、もう一度あのきびしい道へ戻させたのは何だったか？それは音楽の、合唱の魅力であつたといえるでしょう。周囲のことを何もかも忘れさせるあの緊張感。そして、他の人の心へも深く感じ入る憧憬にも似た感情は、音楽のもつ特権だと私は思うのです。本当の音楽とは……などという疑問は私ごときに解けるはずがありません。しかし、それを求めることは充分にできるのだと私は思うのです。」

私は今、とてもしあわせな気持ちになつています。しかし、それとはうらはらに、こわく恐しい何かがおおいます。

さあ、こどもに負けないよう頑張らなくては。





岡崎市放送教育研究大会

充実した内容と成果で、市単位の研究会としては異例の評価を得ている市放送教育研究大会が、市制六十周年の今年は更に充実した形で次のように開催される。なお、この大会の様子は協賛のNHKからテレビで全国に紹介される。

▽期日 6月22日(火)▽会場 三島小・竜海中▽主題 広い視野にたつて、自主的で豊かな人間性を育てるために、生涯にわたってたくましく学習する態度を確立しようー放送とVTRの活用を通して学習意欲を高めようー▽内容 公開授業、分科会協議(①社会・理科・道徳・PTA②社会・理科・保体・英語・PTA)、全体会(・自作VTRー岡崎市六十年の歩みー

【寄贈刊行物・資料等】

◇歌集「映空」 星野孝

すぐれた作文教師、歌人校長として著名な作者の四十年余の詩業の集大成。「まさに等身大の見事な立像」を思わせる珠玉の歌集でもある。現在、県野外

センター所長。B6判箱入で、同名の句文集も付く。千五百円。

◇歌集「花菱」

働く婦人会館短歌教室編 山本甚一先生の指導で五十年から開設した短歌教室の会員十一人の年間作品集。素直な生活の表現が爽やか。B6 5〇P

テレビで全国に紹介

・研究発表)、記念講演▽講師 大阪大学助教授水越敏行先生

■ことしの研究発表校

全国的な規模で発表を準備している理科、道徳の研究会を含めて、五十一年度の研究発表校の発表時期、研究主題が次のように決まった。

▽六月・三島小、竜海中 放送とVTRの活用を通して学習意欲を高めよう(視聴覚教育)

▽九月・六ツ美地区小中学校 実践力を高める道徳教育(文部省、県教委委嘱)・生平小 ひとりひとりの考えを生かす授業(国・算)▽十月・城北中 豊かな人間性を求めて・連尺小・甲山中 理科教育全国大会▽十一月・岩津小 活動力のあるか

交通安全教室の開設

美しい自然環境と整った施設の中の学習が好評だった南公園交通広場での小学生の安全指導が、ことしも現職教育交通安全部会(部長加茂矢北小学校長)で次の要領で計画され、5月12日からスタートした。

▽対象児童と期間 前期(5月7月)一年生(四〇六一人)後期(9月12月)三年生(四〇〇〇人)▽指導内容 ①歩行者のマナー ②自転車の安全な乗り方、通行方法 ③映画や講話による交通安全指導 ④バスの乗り降り、乗客としてのマナー ⑤ブリーカートによる運転の経験等。

▽指導時間 約二時間三十分。

51年度児童・生徒数、教職員数の実態

51・5・1学校基本調査より

区 分	学校校	学 級 数 (特殊)	児童・生徒数			校長・教員数 (非常勤講師を含む)			養護教員		事務職員		養 員 職 員
			男	女	計	男	女	計	県	市	県	市	
小 学 校	37	6 3 4 (26)	11,472	10,952	22,424	4 4 4	3 3 4	7 7 8	29	7	35	25	7
中 学 校	14	2 4 7 (14)	4,900	4,696	9,596	3 0 4	1 0 8	4 1 2	14	1	17	7	0
合 計	51	8 8 1 (40)	16,372	15,648	32,020	7 4 8	4 4 2	1,190	43	8	52	32	7
50年度計	49	8 4 0 (38)	15,751	15,130	30,881	7 2 4	4 0 6	1,130	39	11	50	34	7

○学年別児童・生徒数

学年	小 学 校			中 学 校			
	男	女	計	男	女	計	
1年	2121	1940	4061	4年	1595	1607	3202
2年	2157	1997	4154	5年	1804	1692	3496
3年	2044	1956	4000	6年	1751	1760	3511

○学級・学校の規模

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	606人	685人
1校当たり学級数	17学級	18学級
1学級当たり児童・生徒数	35.3人	38.8人



所在地—岡崎市明大寺町出口

鯖 大 師

岡崎市明大寺町名鉄東岡崎駅より東方百米ほどの所に万燈山吉祥院がある。東海道名所図会にも「絵女房山」として記された伝説の地である。また北条早雲時代の古戦場で千人塚とも呼ばれている。

大坂や八坂坂中鯖ひとつ

大師にくれて 馬の腹やむと彫つてある。

これは徳島県海部郡海南町浅川にある鯖大師の弘法大師巡錫伝説をかたどつたものである。いわゆる四国八十八札所の八坂八浜の伝説である。大師さんに祈ると咳病が治るといい、治ると塩鯖を供えておくということである。

(愛知県医事風土記)

●題 字 内 田 市 長
イラスト 安藤 平(葵中)

●カット 志賀孝人(連尺小)

この本を

- | | |
|----------|-----------|
| ○新西洋事情 | 深田 祐介 |
| 北洋社 | ¥ 9 8 0 |
| ○北の湖 | 井 上 靖 |
| 中央公論社 | ¥ 9 5 0 |
| ○民俗のふるさと | 宮本 常一 |
| 河出書房新社 | ¥ 1 2 0 0 |
| ○前賢余韻 | 石 川 淳 |
| 岩波書店 | ¥ 1 5 0 0 |
| ○教育の心 | 白井 吉見 |
| 毎日新聞社 | ¥ 8 5 0 |
| ○昼下りの教員室 | 望月 一宏 |
| 中央公論社 | ¥ 6 8 0 |
| ○子守唄の人生 | 松永 伍一 |
| 中公新書 | ¥ 3 6 0 |
| ○蝸牛庵訪問記 | 小 林 勇 |
| 岩波書店 | ¥ 1 6 0 0 |
| ○原稿の書き方 | 尾川 正二 |
| 講談社現代新書 | ¥ 3 9 0 |
| ○日本語実用の面 | 中野 重治 |
| 筑摩書房 | ¥ 1 4 0 0 |

けつ(決)意・決行を想うは年度当初のこと。五月の声を聞くとともに、無用の緊張もほぐれるが、同時に、何となく初心もにぶってくる。黄金週間前後の行事や連休がその節である。惰性の出発点とならぬよう、「日々新生」を心に刻むことばとしたい。

ご け し ぐ む

し(飼)育や栽培の好季節となった。児童たちの手にゆだねてしまうと、気がついた時は花壇の苗はい縮し、動物たちは「餌をくれ」と鋭い悲鳴をあげる。地味な継続的な努力があつてこそ発見できる、いのちの不可思議さに目を向けさせたい。

ご(五月)の風に鯉幟が勢いよく泳ぐさまは、いかにも日本的だ。かつて、大方の家が、菖蒲を葺き菖蒲湯をたて、子の息災を願う習をもつていた。近頃はそんな風景を見ることも少なくなつた。

合理性のみを追求しないで、自然と融合した情愛に満ちた風物誌も残したい。

「む(無)理が通れば道理引込む」という諺がある。授業でも然り。子どもたちの表情が暗い授業や、黙りこくつていて活躍しない授業には、教師の無理押しがあることが多い。子どもには子どもの思考の論理があり、活動の仕方があることを忘れないようにしたい。